穀物ソリューション・カンパニー
SHOWA
昭和産業グループ

2019年３月期 決算説明会

昭和産業株式会社

東証一部　証券コード：2004

2019年５月28日

本日のスケジュール

Ⅰ．2019年３月期　決算概要　13：00～

Ⅱ．株主還元について

Ⅲ．2020年３月期　業績予想

Ⅳ．「中期経営計画17-19」の進捗状況

代表取締役社長　新妻一彦

Ⅴ．穀物原料事情概況　13：30～

原料部長　伊藤大祐

Ⅵ．質疑応答　13：40～

Ⅰ．2019年３月期　決算概要

Ⅰ-１．決算のポイント

ポイント①：過去最高収益の更新

連結売上高	2,559億円	（前期比9.8%増）
連結経常利益	97億円	（前期比26.5%増）
当期純利益	72億円	（前期比48.3%増）

※当期純利益は、土地の売却益235億円を
計上した1991年3月期を除く

ポイント②：フリーＣＦの改善

フリーＣＦ	103億円	(前期▲21億円)

※フリーキャッシュ・フロー＝営業活動CF+投資活動CF

Ⅰ-２．決算

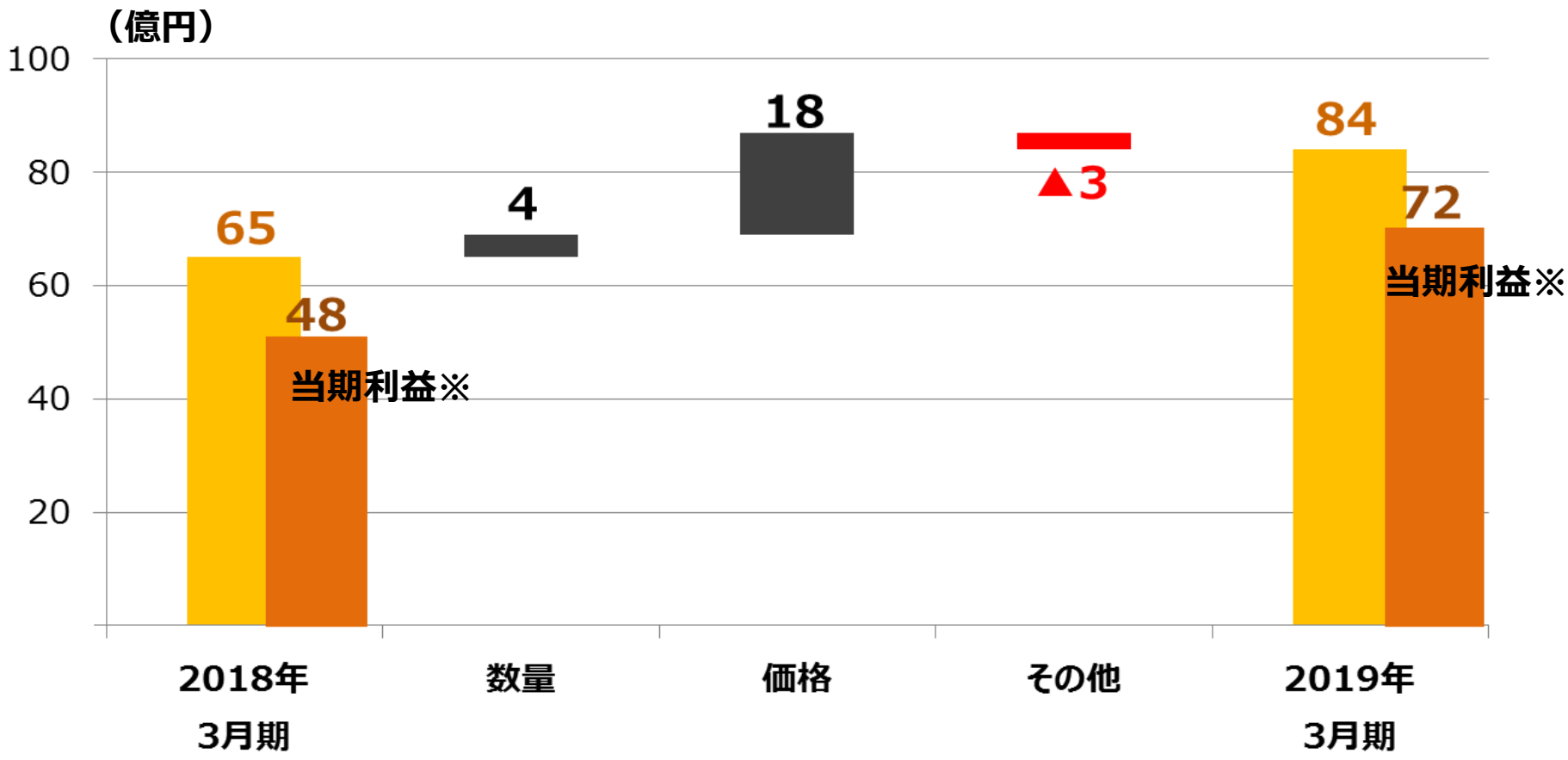
＜連結ベース＞

（億円）

	2019年３月期	2018年３月期	増減	前期比
売上高	2,559	2,331	227	9.8%
営業利益	84	65	18	28.8%
経常利益	97	77	20	26.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	72	48	23	48.3%

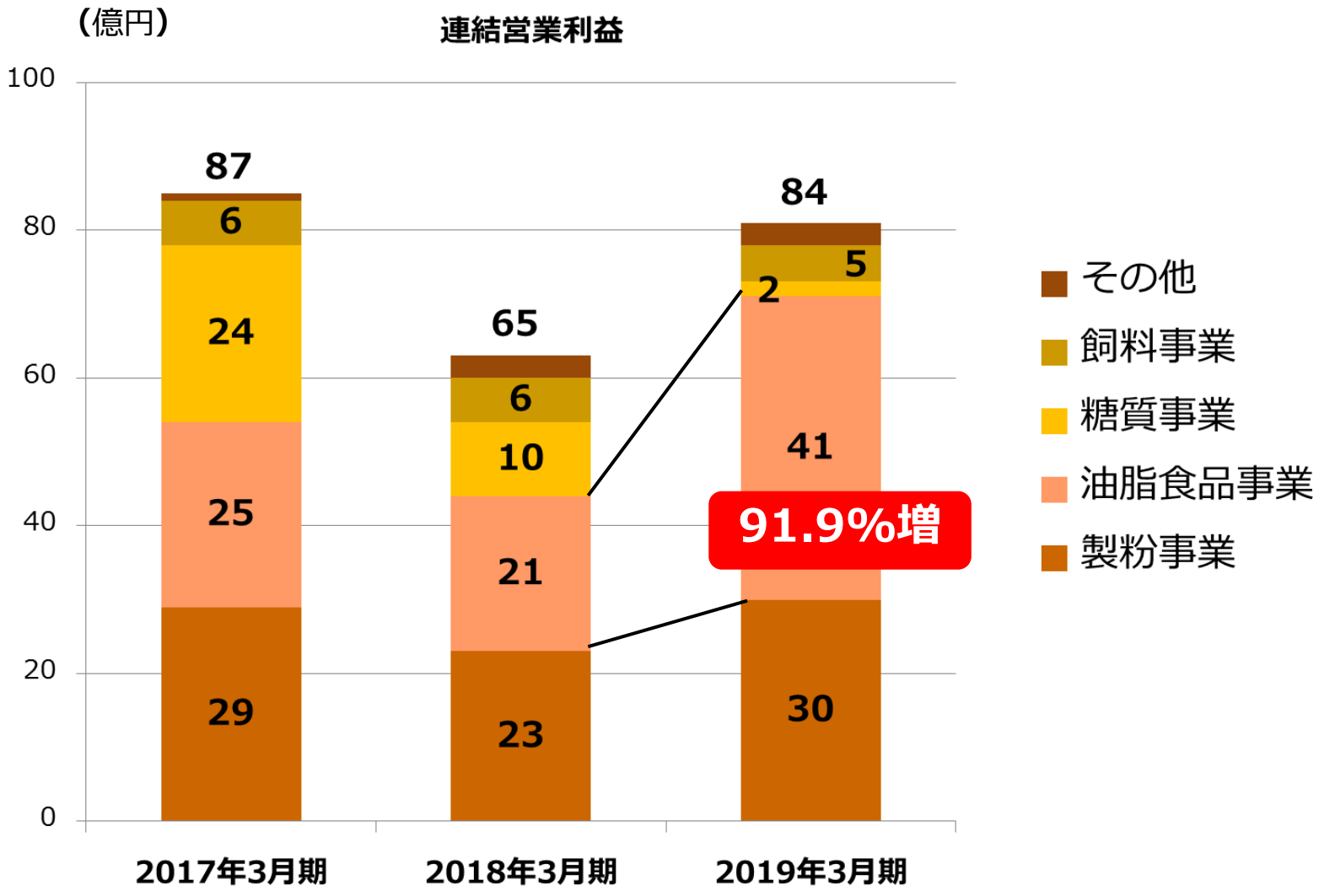
Ⅰ-３．連結営業利益の増減要因

2018年３月期末 65億円	＋18億円	2019年３月期末 84億円



※親会社株主に帰属する当期純利益

Ⅰ-4．セグメント別営業利益



Ⅰ-５．連結貸借対照表の概要

2018年３月期末 総資産　1,705億円	＋41億円	2019年３月期末 総資産　1,747億円

（億円）

流動資産 ＋33

現金及び預金	28
売上債権	19
-15	棚卸資産

負債 ▲ 9

-35	有利子負債
未払金	12
未払法人税等	9

固定資産 ＋7

有形固定資産	9

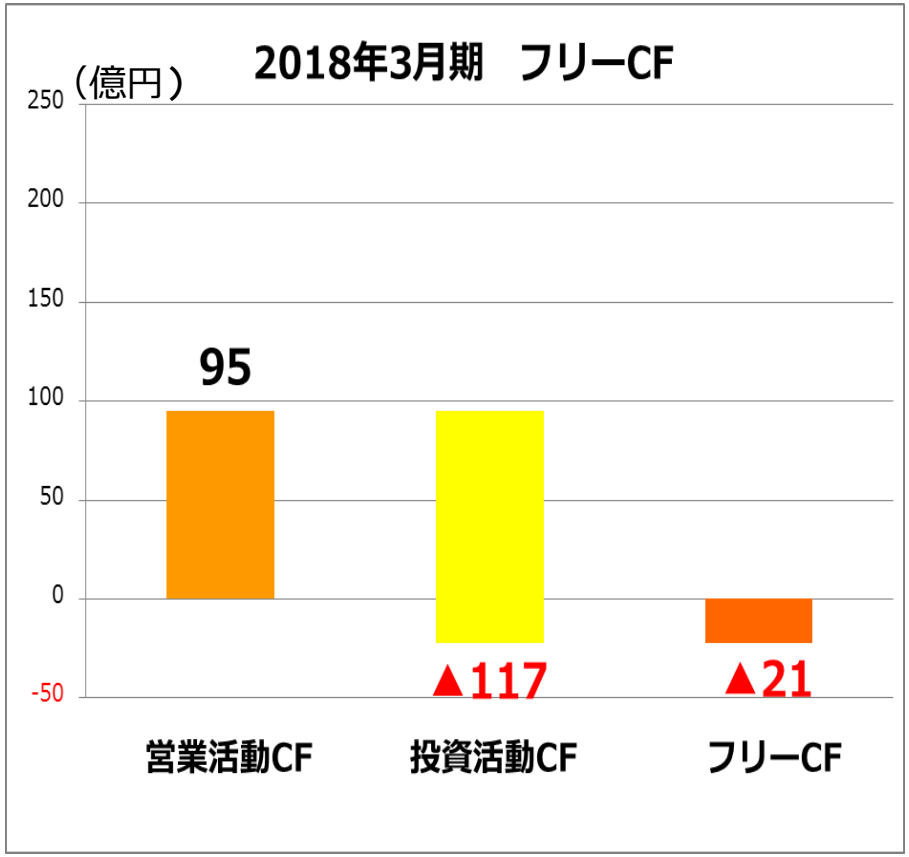
純資産 ＋51

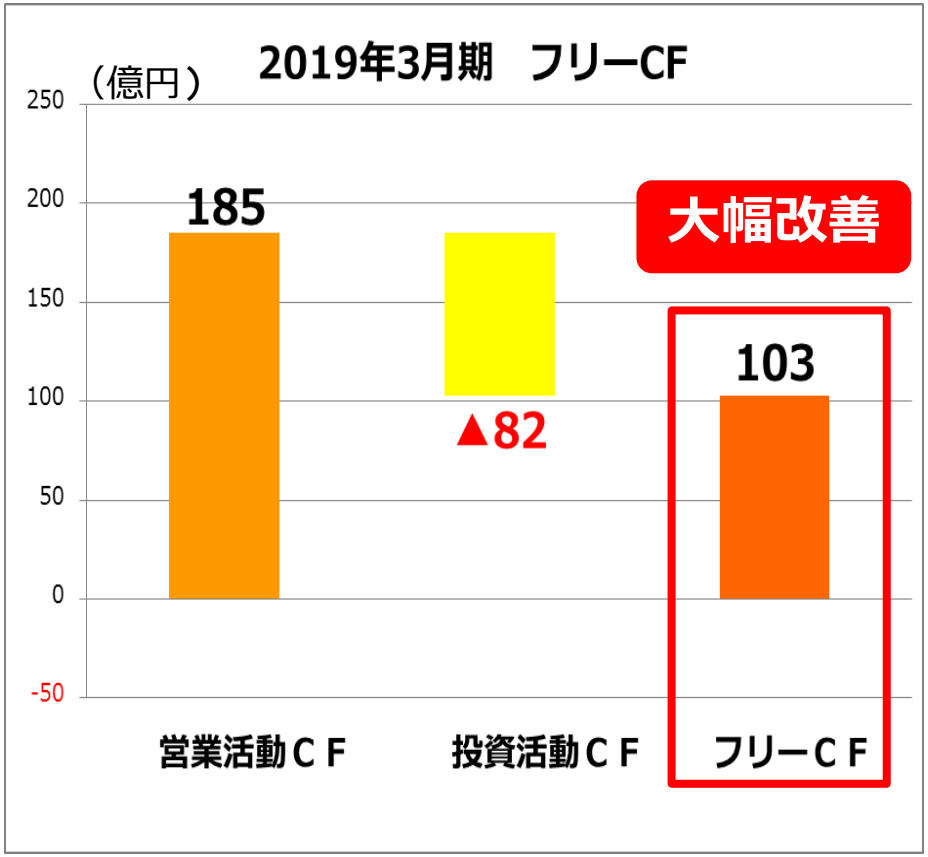
当期純利益	72
-15	配当金支払

ＮＥＴ有利子負債	238億円	▲ 64億円
自己資本比率	47.4%	＋1.6%

Ⅰ-６．フリーCFの改善

＜連結ベース＞



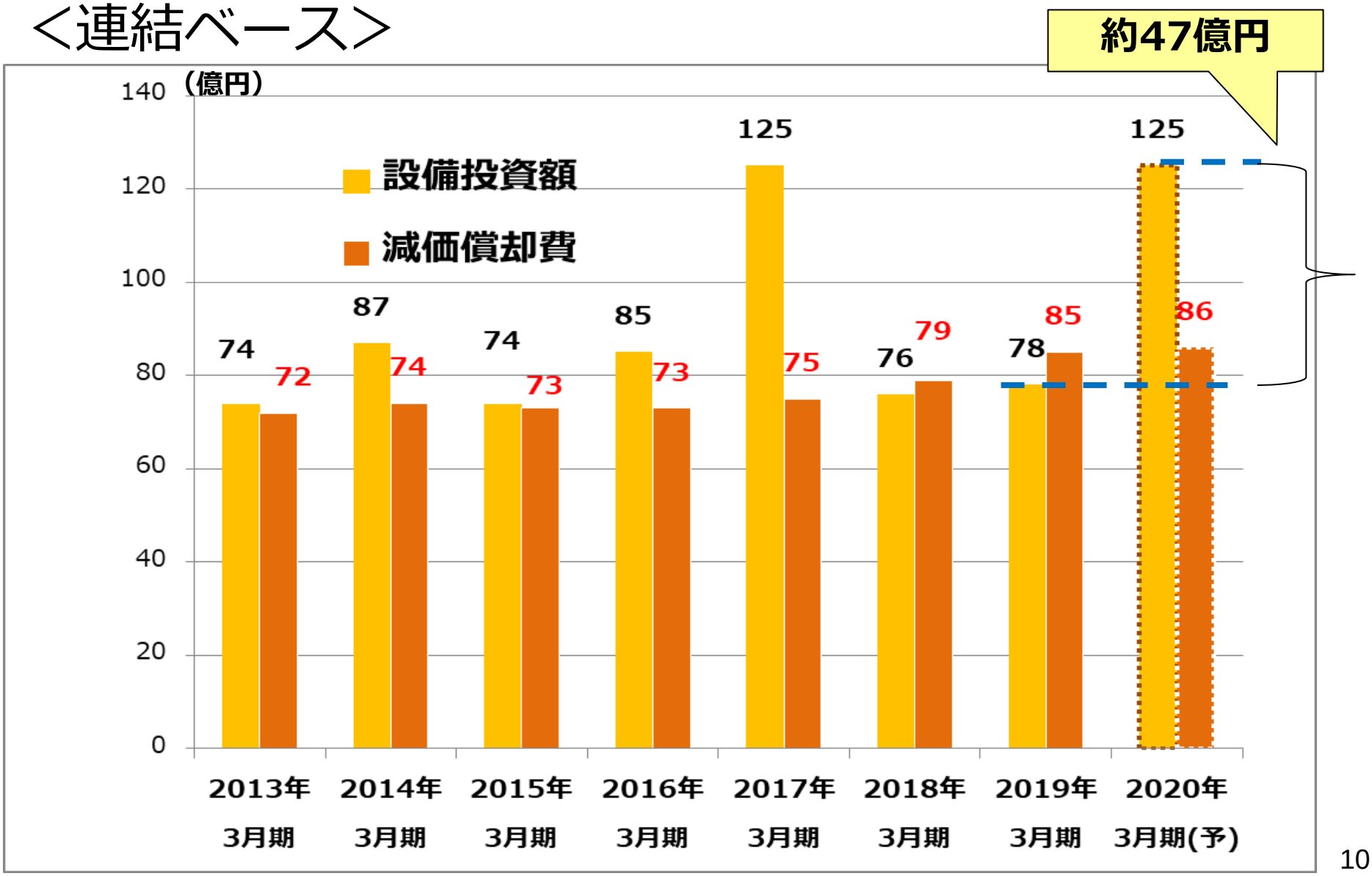


※フリーキャッシュ・フロー＝営業活動CF+投資活動CF

・営業活動ＣＦ：当期純利益の増加・棚卸資産の減少
・投資活動ＣＦ：設備投資等による支出

Ⅰ-７．設備投資額・減価償却費の推移

＜連結ベース＞



Ⅱ．株主還元について

Ⅱ-１-①．株主還元方針

上場企業の責任として、企業価値向上に努めるとともに、
安定的な配当を継続しながら株主への利益還元を積極的に実施

剰余金

→ 積極的な **設備投資**

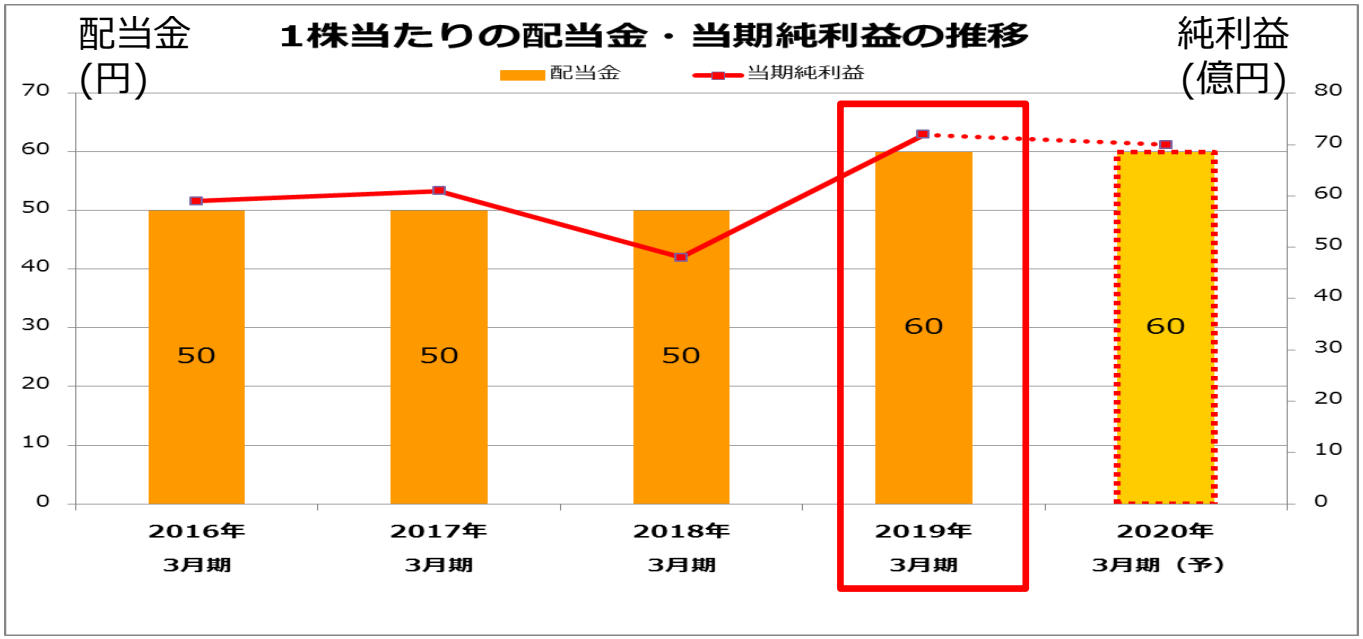
→ 安定的な **配当**

→ 機動的な **自己株式取得**

Ⅱ-１-②．株主還元方針

①配当

●2019年3月期 1株配当　60円



②自己株式

●当社自己株式 15億円を取得

- 目　　的：株主還元及び資本効率向上のため
- 時　　期：2019年5月10日から2020年3月31日まで

●配当性向 26.1%　●総還元性向 46.8%

Ⅲ．2020年３月期業績予想

Ⅲ-１．業績予想のポイント

【2020年３月期業績予想】

連結売上高　2,610億円

連結経常利益　100億円

⇒2019年度3月期に続き、過去最高収益を目指す

ポイント

①マーケット分析力を生かした価値提案型営業の推進
②新製品、機能性製品の拡販
③コストダウンの徹底、および価格改定の実施

Ⅲ-２．業績予想

＜連結ベース＞

（億円）

	2020年３月期（予想）	2019年３月期（実績）	増減	前期比
売上高	2,610	2,559	50	2.0%
営業利益	88	84	3	4.2%
経常利益	100	97	2	2.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	70	72	▲2	▲3.5%

Ⅲ-３．セグメント別業績予想

＜連結ベース＞

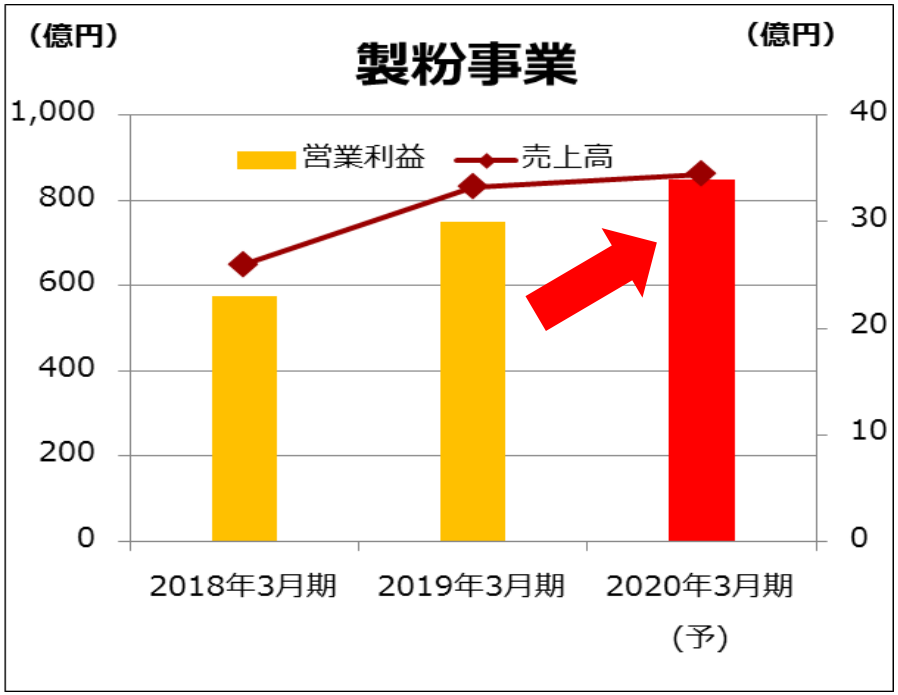
（億円）

	売上高				営業利益			
	2020年3月期（予想）	2019年3月期（実績）	増減	前期比%	**2020年3月期（予想）**	2019年3月期（実績）	増減	前期比 %
製粉事業	**861**	831	29	3.6	**36**	30	5	19.8
油脂食品事業	**800**	804	△3	△0.5	**34**	41	△7	△18.7
糖質事業	**350**	338	12	3.7	**10**	2	7	254.3
飼料事業	**545**	532	12	2.4	**7**	5	1	33.3
倉庫事業	**28**	28	0	0	**7**	7	0	0
不動産事業	**20**	20	0	0	**11**	11	0	0
その他	**2**	2	0	0	**0**	0	0	0
会社費用等					**△19**	△15	△3	24.3
合計	**2610**	2559	50	2.0	**88**	84	3	4.2

Ⅲ-４．セグメント別業績予想　製粉事業

（億円）

	2020年3月期（予想）	2019年3月期（実績）	増減	前期比
売上高	**861**	831	29	3.6
営業利益	**36**	30	5	18.2

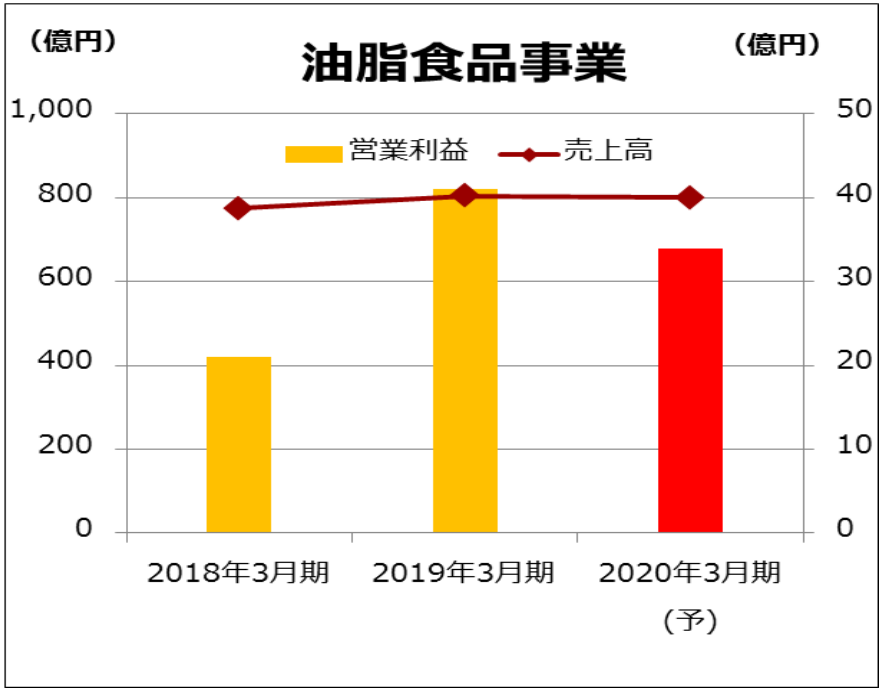


- マーケット分析力を生かした「価値提案型営業」の強化
- 大手流通の活用、エリア別・業態別の販売戦略の構築
- 新製品の拡販
- 生産体制の最適化推進

Ⅲ-５．セグメント別業績予想　油脂食品事業

（億円）

	2020年3月期（予想）	2019年3月期（実績）	増減	前期比
売上高	**800**	804	△3	△0.5
営業利益	**34**	41	△7	△17.5

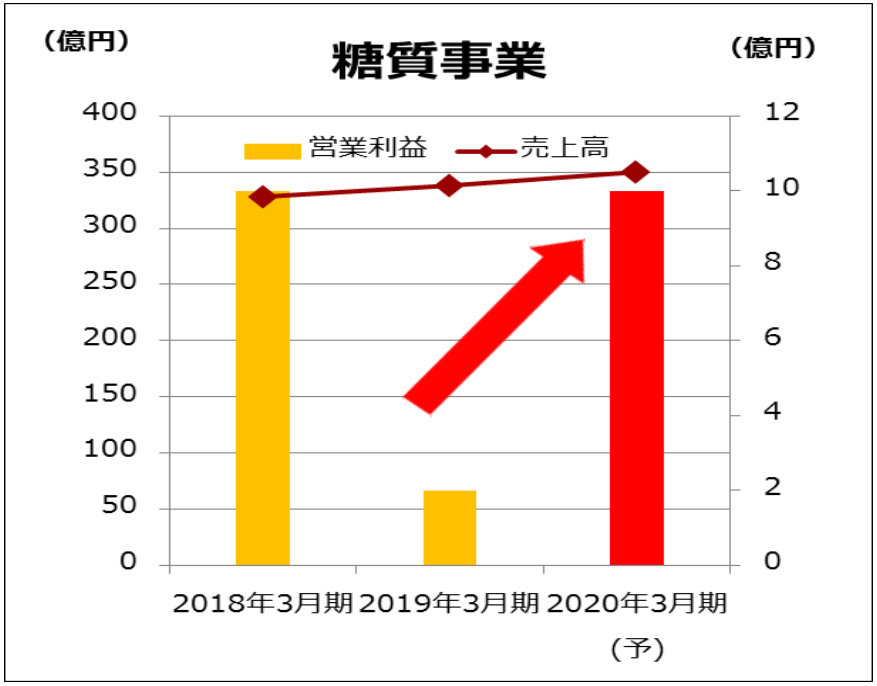


- 業務用・油脂製品の価格改定、および販売管理の徹底
  ・課題解決型提案営業の強化、および新製品の拡販
- 家庭用・家庭用油脂製品の価格改定、および販売管理の徹底
  ・プレミアムオイル（オリーブオイル）の拡売
  ・天ぷら粉60周年に向けたPR強化

Ⅲ-６．セグメント別業績予想　糖質事業

（億円）

	2020年3月期（予想）	2019年3月期（実績）	増減	前期比（%）
売上高	**350**	338	12	3.7
営業利益	**10**	2	7	254.3

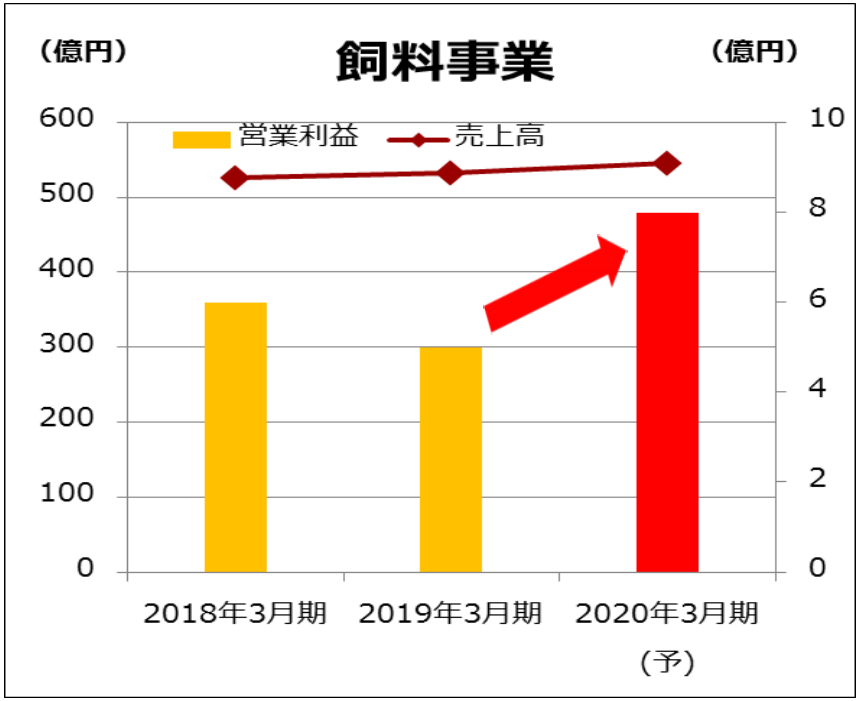


- 糖質製品の価格改定の推進
- 工程ロス削減などコストダウンをさらに推進
- 機能性製品や食品用加工でん粉などの拡販
- 鹿島工場の粉末水あめの設備更新増強による拡販（2019年10月予定）

Ⅲ-７．セグメント別業績予想　飼料事業

（億円）

	2020年3月期（予想）	2019年3月期（実績）	増減	前期比（%）
売上高	**545**	532	12	2.4
営業利益	**7**	5	1	33.3



- 鶏卵を中心とした生産物の販売支援の取組強化と飼料拡販
- 飼料原料販売の一元化・集約による、拡販および利益向上
- 原材料コストに見合った価格での販売による収益確保

Ⅳ．中期経営計画17-19の進捗

Ⅳ-１． 長期ビジョンの概要

ありたい姿（長期ビジョン）
SHOWA Next Stage for 2025

ありたい姿（長期ビジョン）の実現に向け、
中期経営計画を三次にわたり展開

～3rd Stage～

中期経営計画23-25

収　穫

～2nd Stage～

中期経営計画20-22

確　立

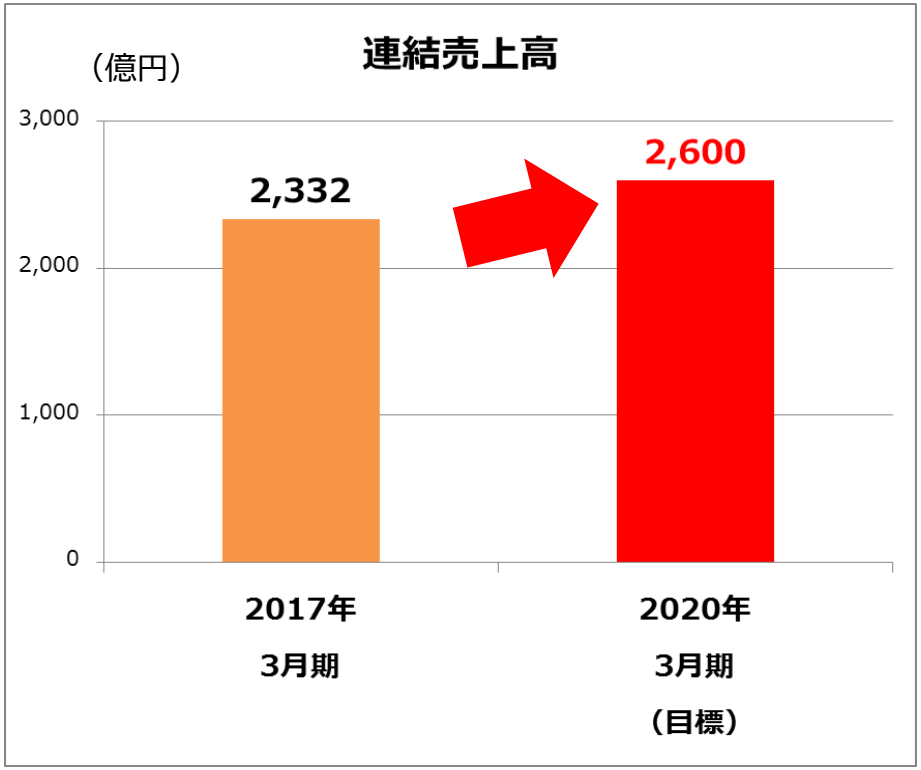
～1st Stage～

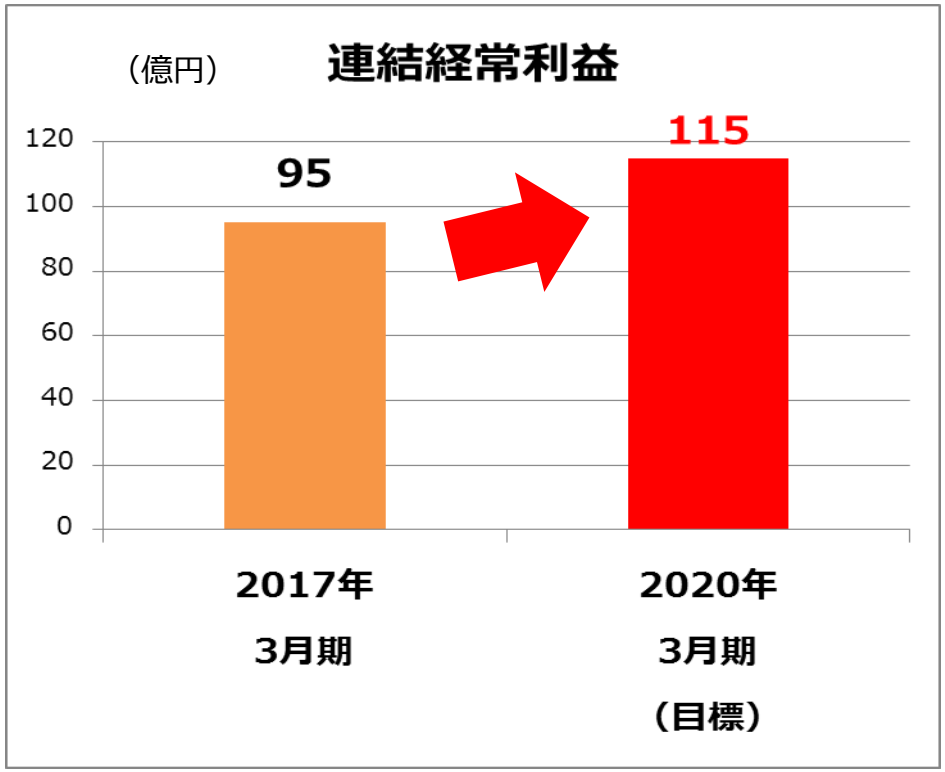
中期経営計画17-19

現状

ありたい姿に向けた
足場固め

Ⅳ-2. 中期経営計画17-19の数値目標



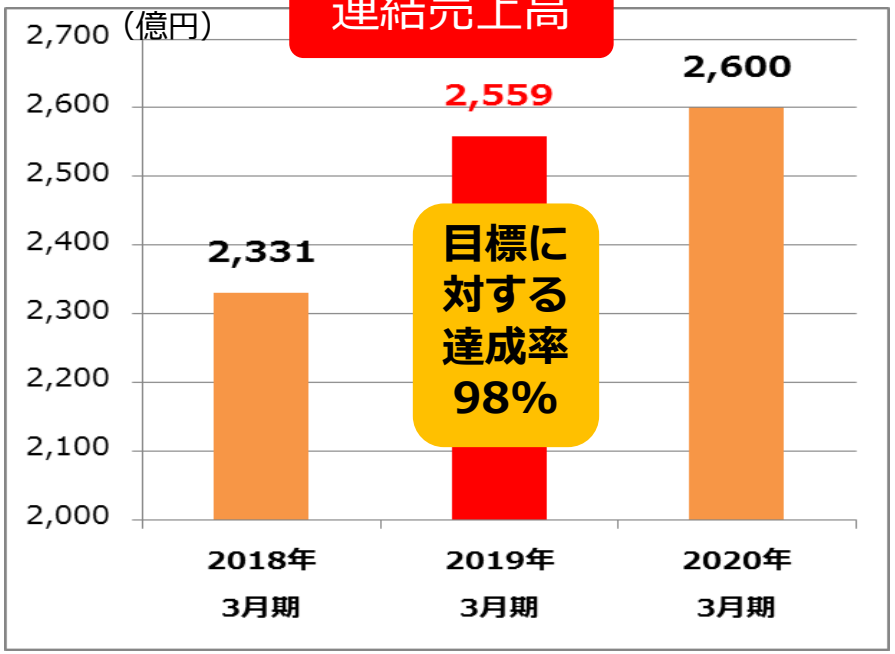


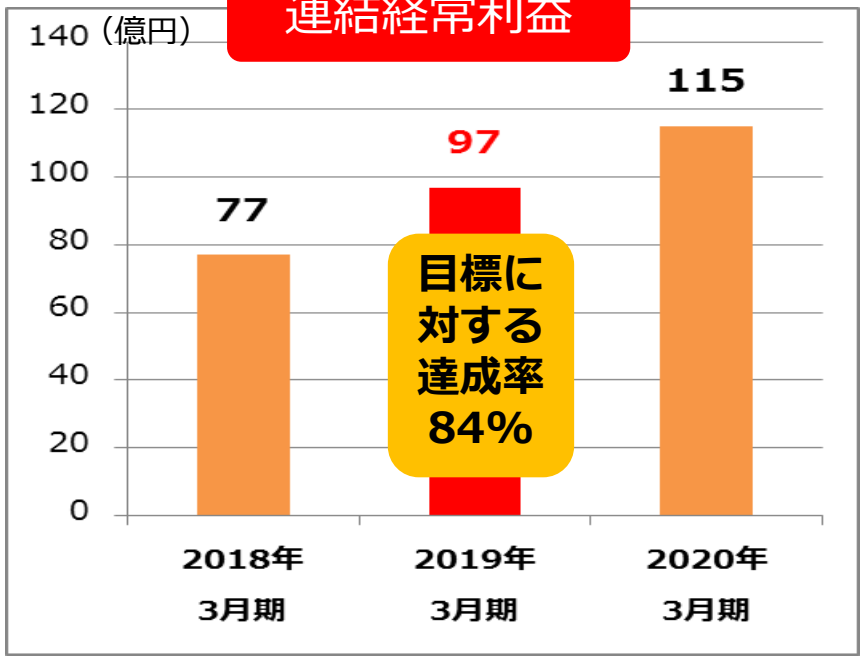
	2017年3月期
ROE	8.7%
自己資本比率	44.4%

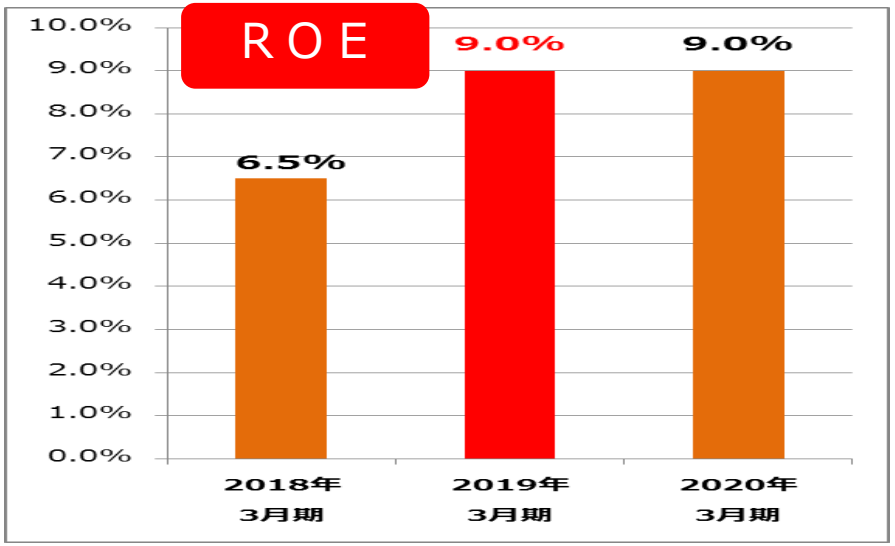
2020年3月期（目標）
9.0%以上
50%以上

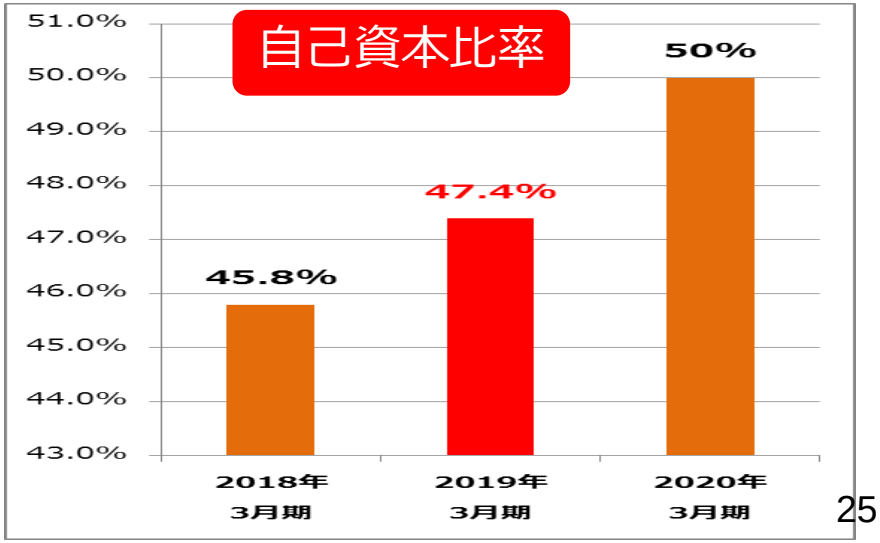
上記数値目標を達成することにより、収益性の向上、財務体質の強化をはかります

Ⅳ-3. 中期経営計画17-19の進捗









Ⅳ-4-①．基盤事業の強化

セブン-イレブン向け　パンビジネス

昭和産業グループによる共同提案＆開発①
⇒パン売り場のリニューアル提案（全店舗5月20日～）

昭和産業グループによる、原料供給から焼成までの一貫体制

原料供給

SHOWA 昭和産業

小麦粉・プレミックス
食用油・糖化品　など

冷凍パン生地

グランソール ベーカリー

タワー ベーカリー

焼成パン

スウィング ベーカリー

ガーデン ベーカリー

タワー ベーカリー

共同開発

市場分析・提案

ブール系

白生地

デニッシュ

Ⅳ-4-②．基盤事業の強化

セブン-イレブン向け　パンビジネス

昭和産業グループによる共同提案＆開発②
⇒パンの品質向上を目的とした原料開発

グランソールベーカリーのラインを使用した
オリジナル原料の開発

➡ しっとり食感・風味向上

（製粉事業）
小麦粉

（製粉事業）
プレミックス

（油脂食品事業）
オリーブオイル

（糖質事業）
ドーナツシュガー

※案

グループ共同開発
【新商品】

もっちり食感の
ブール

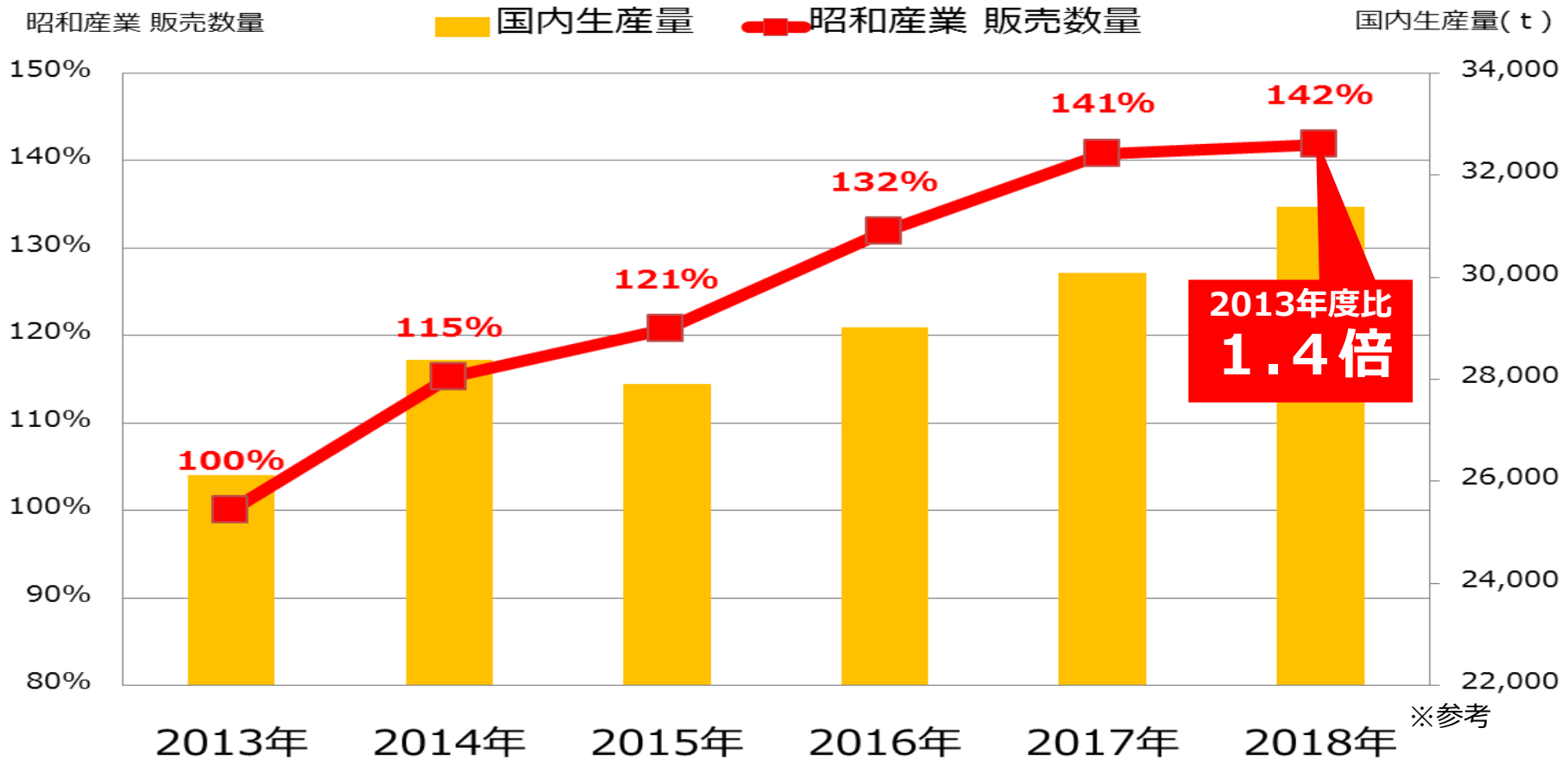
※イメージ

グループ連携・複合系シナジーソリューション成果

Ⅳ-4-③．基盤事業の強化

業務用大豆たん白の販売強化

【業務用大豆たん白の販売数量伸長率推移】



※参考

国内生産量：一般社団法人　日本植物蛋白食品協会より

Ⅳ-5. 事業領域の拡大

海外事業について

2018年11月　ベトナム新会社設立

ベトナムの経済発展に伴う需要拡大
→プレミックス製造会社設立および工場建設

＜概要＞
1.会社名：MEKONG INTERNATIONAL MIX JOINT VENTURE COMPANY LIMITED（「インターミックスメコン社」）
2.所在地：ベトナム社会主義共和国　ハウジャン省
3.資本金：500億ドン（約2億4千万円）
（ダイフォン製粉グループ 約68%
当社 約32%）
4.事業内容：プレミックスの製造販売
5.操業開始予定：2020年春

インターミックスメコン社
（ハウジャン省）

インターミックス社
（ホーチミン）

Ⅳ-6-①．社会的課題解決への貢献 プラットフォームの再構築

ＥＳＧ経営の推進

E 環境保安活動の強化 ⇒2019年4月 新設部署の設置

【生産技術部】
環境保安グループ

連携

【各工場】
環境保安室

テーマ	昭和産業G 2017実績
CO２排出量	-18.6%
廃棄物の再資源化率	97.4%
食品廃棄物の再生利用	99.9%

ＣＯ２削減、食品ロスの削減　強化

Ⅳ-6-②．社会的課題解決への貢献 プラットフォームの再構築

ＥＳＧ経営の推進

S ダイバーシティ経営の推進

⇒2019年1月「ＩＮＣ（インク）推進室」※の創設

※昭和産業グループダイバーシティ経営宣言における３つの　基本的考え方
「昭和産業グループＩＮＣポリシー」のキーワード　「**I**nclusion」「**N**ormalization」「**C**ooperation」の頭文字を　取った、弊社独自の用語です

障がい者雇用　女性活躍　シニア活躍

働き方や時間の制約を克服する枠組み

それぞれの個性と能力を最大限に発揮できる企業文化の醸成

Ⅳ-6-③．社会的課題解決への貢献 プラットフォームの再構築

ＥＳＧ経営の推進

G コーポレート･ガバナンス体制の強化 ⇒2019年1月 経営諮問委員会の設置

取締役会

諮問 →

← 答申

（2017年4月より）
報酬諮問委員会

役員の
報酬・評価

★役員報酬ポリシー

（2019年1月より）
経営諮問委員会

役員の人事
経営課題解決

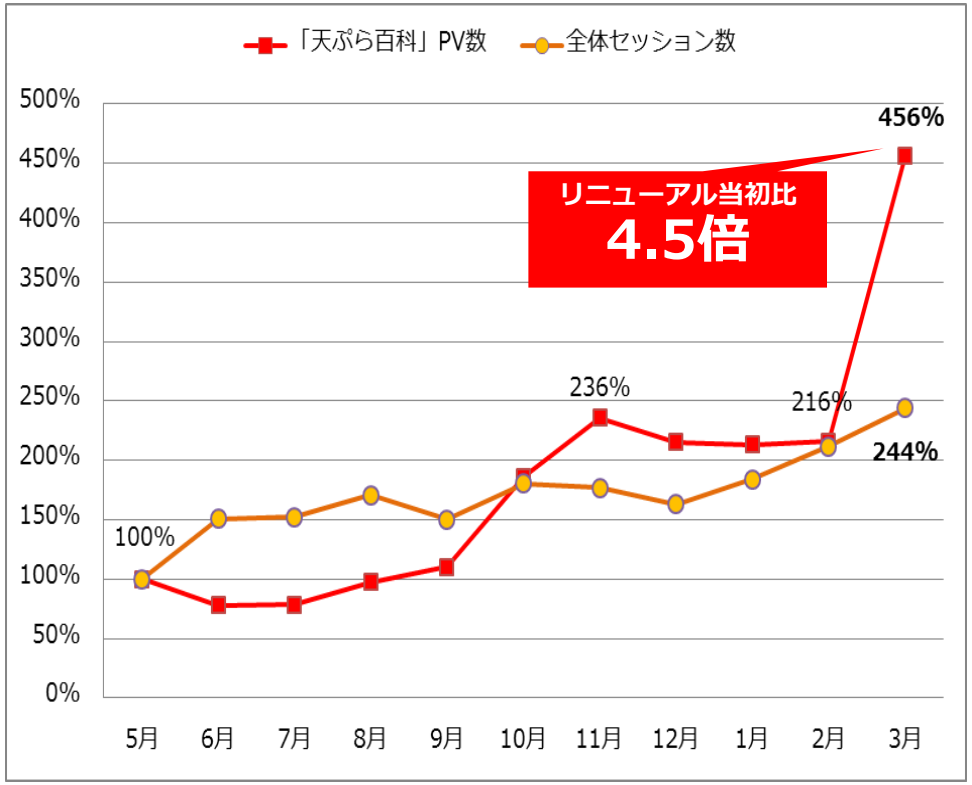
3名以上の委員で構成し、委員は社外取締役のみとする

客観性・透明性の確保

Ⅳ-7. ステークホルダーエンゲージメントの強化

コーポレートサイト全面リニューアル

～より見やすく、使いやすく、親しみやすいサイトを目指して～



https://www.showa-sangyo.co.jp/

Ⅳ-8-①．トピックス

日本の食文化の継承と発展に貢献

～日本で初めて「天ぷら粉」を発売した企業としての責務～

社内認定制度
⇒2019年4月
「ＳＨＯＷＡマイスター（天ぷら）」導入

●対象：役員を含む全社員

階級	目　的
初級	【楽しむ】 天ぷら（粉）に接点を持ってもらう
中級	【知る】 天ぷらを知り、友人、知人に伝える
上級	【生かす】 天ぷらに関する食品全般の知識の深堀り

Ⅳ-8-②．トピックス

食育志向新商品の開発

～「家庭で楽しく」「簡単・便利」「手作りでおいしく」～

2019年３月発売

2019年３月発売

穀物ソリューション・カンパニー

SHOWA

昭和産業グループ

見通しに関する注意事項

本資料は、現時点で入手可能な情報や、合理的と判断した一定の前提に基づいて策定した数値であり、潜在的なリスクや不確実性などを含んでいることから、その 達成や将来の業績を保証するものではありません。

また実際の業績等も本資料における見通し、計画等とは大きく異なる結果となる可能性がありますので、本資料のみに依拠して投資判断を下すことはお控え下さい。

なお、将来における情報・事象及びそれらに起因する結果にかかわらず、昭和産業グループは当中期経営計画を見直すとは限らず、またその義務を負うものではありません。